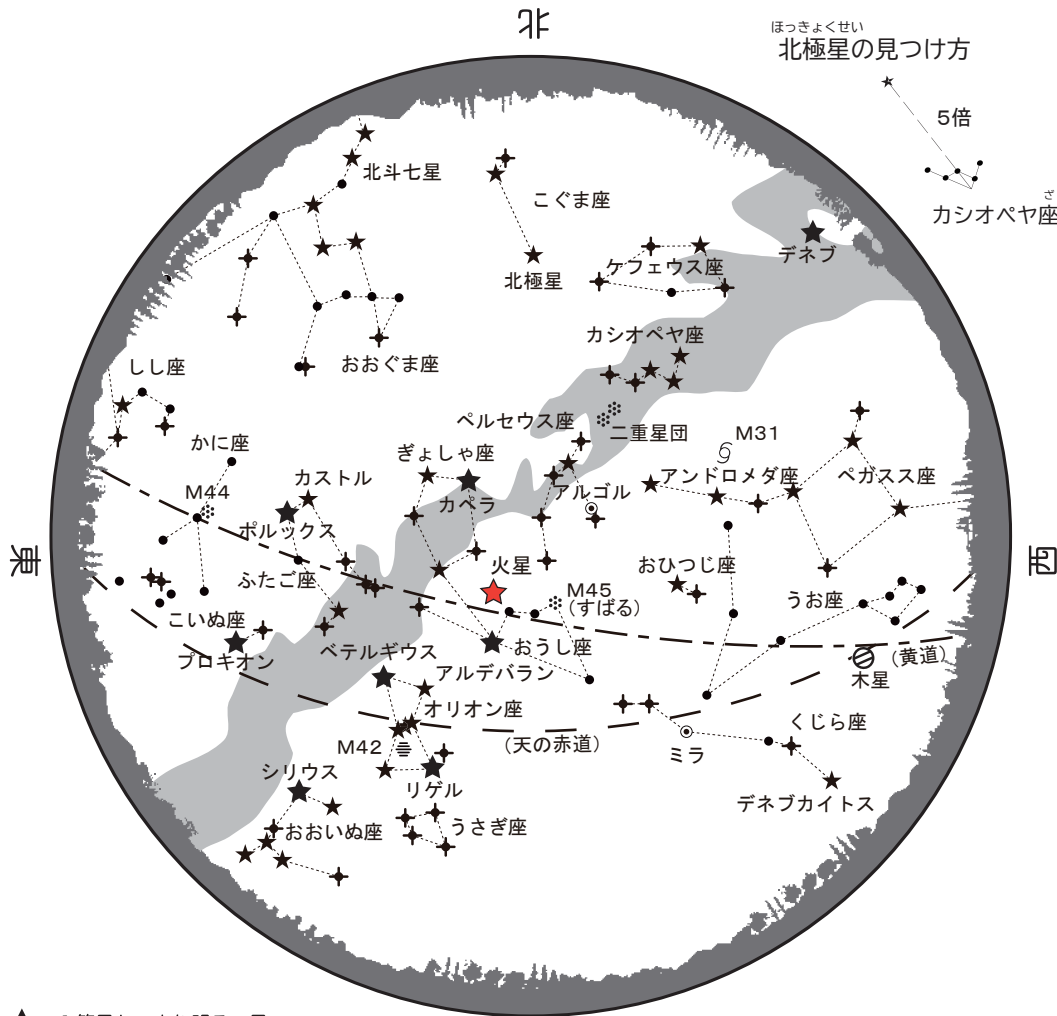


富山で見える 2023年1月の星空

自分の見たい方向を下にして、その方向の空を見よう。



- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ☁ 星雲
- ☾ 銀河

～この星空が見えるのは～

- 1月 5日 午後9時ころ
- 1月 20日 午後8時ころ
- 2月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

- 1月 7日 満月 ○
- 1月 15日 下弦 ◐
- 1月 22日 新月 ●
- 1月 29日 上弦 ◑

カシオペア座



北極星を見つけるための星座としてよく知られています。Mの形の星の並びが目印です。日本では、船のいかりや山の形に似ていることから「いかり星」とか「山形星」と呼ばれました。カシオペアはギリシャ神話に出てくる王妃の名前です。

ぎょしゃ座



ぎょしゃとは馬車の運転手のことです。黄色の0等星カペラと、カペラをふくむ五角形の星の並びが目印です。カペラは「小さな雌ヤギ」という意味で、星座絵でもヤギをかかえた男の人が描かれています。

おうし座



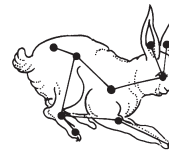
おうしの目のところにある赤い1等星アルデバランが目印です。今月はアルデバランの近くに赤く明るい火星が輝いていて、二つの赤い星がとても目立ちます。おうしの肩のところには、有名な「すばる（プレアデス星団）」があります。

オリオン座



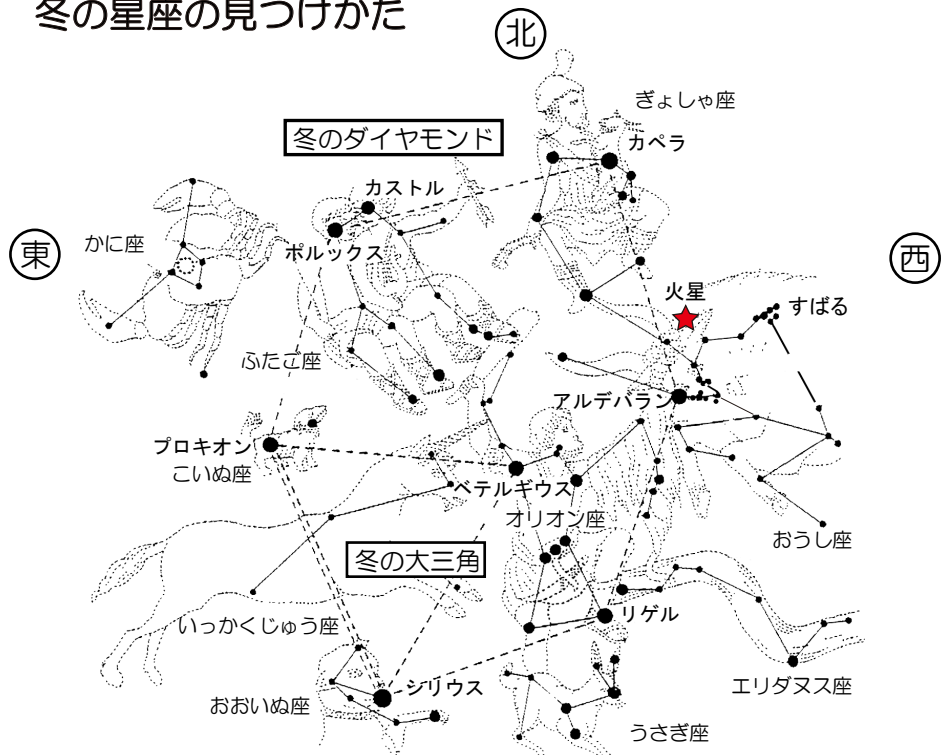
リボンのような形をした星の並びがオリオン座です。右肩の赤くて明るい星はベテルギウス、左足のやや青みがかかった明るい星がリゲルです。またこの星座には、オリオン大星雲（M42）と呼ばれる星雲があります。

うさぎ座



オリオン座の足元にある星座です。うまく星をつなぐと、長い耳やしっぽ、前足などをたどることができます。このうさぎは、狩人オリオンの獲物として作られた星座だという説があります。

冬の星座の見つけかた

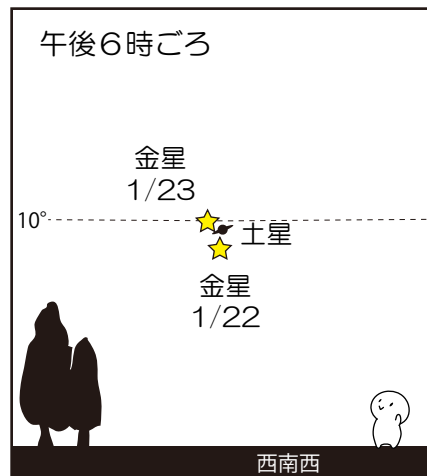


1月中ごろ 午後9時ごろ

- 1 リボンのような形のオリオン座を見つけてます。
- 2 オリオン座の真ん中の3つ並んだ星（三つ星）を右上にのばして、おうし座のアルデバランを見つけてます。
- 3 今年は、アルデバランの近くに赤く明るい火星が輝いています。さらに火星の左上に、カペラと五角形に並んだぎょしゃ座を見つけてます。
- 4 オリオン座の三つ星を左下にのばして、冬の星座で一番明るく輝くシリウスを見つけてます。
- 5 オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の大三角」を見つけてます。
- 6 ぎょしゃ座の左下に、2つ並んだ明るい星のあるふたご座を見つけてます。
- 7 1等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン、リゲルをつなぐ大きな六角形が「冬のダイヤモンド」です。

金星と土星が接近！

今月後半になると、夕方の西の空の低いところに、とても明るい星が見えるようになります。「宵の明星」とも呼ばれる金星です。金星は太陽系の惑星のひとつで、地球のすぐ内側で太陽の周りを回っています。昨年秋から年末くらいまでは金星が地球から見て太陽とほぼ同じ方向にあったため見られませんでした。今月になって見た目の位置が少しずつ太陽から



離れてきたので、夕方暗くなってくると西の空で見られるようになってきます。今月はマイナス3.9等の明るさで、街の中でも人目を引きま。今月22日と23日には、金星と土星がかなり近付いて並ぶ様子が見られます。ただかなり低いので、西の空の開けた場所で見てみてください。土星を基準にすると、金星の場所が毎日変わっていく様子も分かりますよ。

うさぎ年にうさぎ座を探そう

2023年はうさぎ年ですね。うさぎ年にうさぎ座を探してみませんか。うさぎ座は冬の星座です。オリオン座を見つけたら、すぐ下にある3等星と4等星をつないでみましょう。小さい星座ですが、うさぎを想像しやすい星の並びなので探しやすいです。狩人オリオンと猟犬おおいぬに追われて逃げるよううさぎの姿が浮かび上がってきますよ。

